

子ども達の健やかな育ちの為に

岩崎 小百合



問 市の3歳4か月児健診において、「スポットビジョンスクリーナー（屈折検査機器）」が、令和6年3月から導入された。その経緯と、屈折検査機器について伺う。

答 令和4年6月、国がこの検査を弱視などの早期発見に効果的と判断し、補助制度を創設。それを受け、市は令和5年度に予算措置し、令和6年3月に購入。この器機は、赤外線を利用して瞬時に目の写真を撮影し、屈折や眼位検査を行うもので1人概ね1分程度。

問 子どもの視覚は6歳頃までに完成されるといわれ、弱視は成長してからの回復は難しい。早期発見・早期治療がカギとなる。幼少期は子ども自身が見え方の問題を自覚し伝えることは難しいため、3歳4か月児健診における屈折検査は大きな効果が期待される。一人でも多く受診してもらえるように、屈折検査を行う目的や効果などについて、今後HPで分かりやすく周知していく必要があると思うが、その予定はあるか。

答 チラシやパンフレット等で周知に努めている。HPに載せる内容については精査する。

産後ケアの拡充を

林 美希



問 「多胎児家庭」「医療的ケア児家庭」、対象となる子ども以外にきょうだい児がいる場合、特段の配慮が必要と考える。このような場合、他の子育て支援サービスとの組み合わせの提案など想定と準備はされているか。

答 複数人の乳児が宿泊する場合など、特段の配慮を要すると考えられる場合は別途制度を設けている。訪問型などは家庭状況等に関わらず一定のサービスの提供が可能と考えており、個別事情については詳細な制度設計による対応は難しいと考え、他のサービスの活用も含めて個別に相談に応じている。

問 宿泊型、通所型、訪問型、それぞれ拡充を求める。既存の受託事業者との調整、他の内容を提供する新規事業者の掘り起こしの有無や状況、契約締結の可能性は。

答 サービス提供事業者が増加し、その特徴に応じて選択肢が増えることは望ましいと考えている。事業の趣旨に則し、より充実したサービスの提供に向けて、引き続き事業者との情報共有と丁寧な協議を進めていく。

本市と台湾との
友好交流について

宮窪 雅一



問 いつも日本に寄り添ってくれる台湾の人々との交流の深化は、子どもたちが現代日本人が忘れつつある日本人としての誇りを持ち、自尊心と自己肯定感の向上に期待できる。友好都市協定の締結等検討出来ないか、市の見解は。

答 外に出ることにより、日本人としてのルーツやアイデンティティを深く考えるきっかけになる。市内には約60カ国、2千人を超える外国の方が住まれており、すべての国と友好関係が築けたら素晴らしい。その中でも台湾は最も日本人と価値観も近く『なまずサミット』でも協力をいただき、台湾花蓮地震では義援金をお送りし交流が始まっている。民間、市民の交流がさらに深まれば機運も高まるのではないかと。

◆歴史教科書選定について

問 『家族を郷土を愛し志を立て凛として生きてゆく』という市の教育大綱に即した歴史教科書選定をすべきでは。

答 新しい事実が分かった場合、常に知識を更新し、採択地区の調査員、選定委員とも共有し、子どもたちに正しい事実が伝わるよう努力する。

選挙の投票率について

野村 拓郎



問 投票率低下の原因について伺います。

答 投票率の低下の要因につきましては、「政党の政策や候補者の人物像の違いがよく分からなかったから」、ついで「選挙にあまり関心が無かったから」とのご意見が多かったことから選挙に関心が低いとの要因があると考えております。

問 令和6年1月の市議会議員選挙において前回の回答以外の広報活動、啓発活動を行ったか伺います。

答 新たに三輪野江小学校にご協力をいただき、次世代を担う子どもたちの声で、告示日の翌日から投票日まで広報車での呼びかけを実施したところです。

問 今後の選挙の投票率を上げるための施策があれば伺います。

答 選挙への関心を高めるために今までの広報活動、啓発活動を引き続き実施するとともに、若い世代が触れることが多いSNS等の活用についても検討してまいります。選挙の重要性を理解してもらえるように、幅広い世代に向けての広報活動を継続していきます。